

小西化学工業 ニッチ企業による研究開発、人材活用の取組み

日 時：2016年2月24日（水）8：45～11：00

場 所：小西化学工業

説明者： 計3名

- ・小西 弘矩 代表取締役社長
- ・平尾 宗樹 取締役 生産企画室長
- ・辻 和男 理事 総務部長

1. 本視察の目的

ニッチ企業の研究開発の推進や積極的に大企業OB人材を活用している企業を訪問し現状と課題についてヒアリングを実施した。

2. 訪問先の会社概要

<小西化学工業>

創立：1962年（昭和37年）

所在地：本社工場 和歌山県和歌山市、福井工場：福井県坂井市

資本金：1,000万円、売上高：44億円、従業員数：100名

事業内容：精密化学品・機能性化学品の研究開発・製造・販売

3. 意見交換

- ・和歌山県では、江戸時代から大正時代にかけて、紀州ネルの地場産業が栄えており、関連企業として染料の製造を中心とした化学系企業が集積。現在、和歌山市内を中心に30社以上の化学関連企業あり、主要産業の1つとなっている
- ・小西化学工業は、スルホン化技術がコア技術（ ）。2003年に大手化学企業からの依頼を受け、エポキシ樹脂の受託製造を開始、事業を拡大する
密集している企業それぞれのコア技術が異なるため、競合しない。
- ・インド、中国の化学企業の台頭により、中間体を製造することだけでは生き残ることはできないと危機感を覚え、中間体屋から脱却を決意。方向性を試行錯誤の末、現在は、コア技術であるスルホン酸基の機能にあらためて着目し、それを活かした新機能材料開発、新たな事業分野の開拓に取り組んでいる
- ・研究開発にあたっては、専門家との連携が必須。例えば水処理膜や人工透析への適用においては、神戸大学の先端膜工学センターの支援、指導を受ける
- ・文科省の「都市エリア産学連携促進事業」において、和歌山大学、北陸先端科学技術大学院大学、室蘭工業大学と共同で、2007年より3年間材料の

開発（PSQ:ポリシリコン）を実施

- ・産学官連携の課題は、シーズはあるがニーズが明確ではないという印象がある（社長）。素材の“性能”から“機能”（価値）を引き出すためには明確なニーズとのマッチングが必要
- ・脱中間体屋に向け、新たな2つの事業コンセプトで取り組んでいる
- ・「インテグラル・ケミストリー」 ケミストリーだけでなく、エレクトロニクス、オプトエレクトロニクス、レオロジーといった異なるサイエンスの統合により求められる機能を化学に翻訳してお客様へ提案を行う
- ・「IT・カスタムマニュファクチャリング」 新医薬品開発のスキーム（ ）をモデルに、新機能材料を開発するお客様から量産時製造委託を前提とした開発段階での製造を委託してもらえ“インサイドパートナー”としてのポジション確保を目指したパイロットプラント設備への先行投資
新薬品の開発は製薬メーカーが実施、製造は化学会社が量産時の製造受託を前提として、ラボ、パイロット、工業化の各フェーズで製造を受託するスキーム
- ・大きな課題として人材不足があり、組織力を強化するため、さまざまな分野の大企業OBを採用。出向または転籍という形態で受け入れている。大きなプロジェクトを任せられることもある。専門スキルやネットワークを発揮してもらおうと同時に、若い人の育成にも貢献してもらっている
例）取締役営業部長（商社） 取締役生産企画室長（化学） 経理部長（銀行）
- ・2013年に福井県坂井市に工場を新設。坂井市に決定した理由は豊富な水源、安価な電力、排水処理施設の充実（ ）等。また、勤勉な優秀な人材が豊富なため人材確保への期待もあり
県最大の工業団地テクノポート福井に竣工
排水処理については、和歌山市もインフラ整備の支援を行っている
- ・今後の大きな課題は若手人材の採用。若手が大手志向、高専も活躍の場が多いが進学する人も多くなってきている等、県内就職希望者は取り合いの状況。インターンシップも実施しているが、最終製品を作っていない弱み（アピールしづらい）あり。新卒者一斉採用の仕組みは中小企業には辛い。その点で、中小企業庁による採用向けVideo制作はありがたい